

# 2017年度事業報告書

自 2017年 4月 1日

至 2018年 3月 31日

<目的及び事業> \* 定款 第3条・第4条より

(目的)

第3条 この法人は、優秀でありながら経済的理由により修学が困難な、日本国内で学ぶ大学生・大学院生に対する奨学金の貸与・給付及び留学生に対する奨学金の給付を行うとともに、育英に関する調査研究・情報提供、大学生等の人材育成活動に対する助成事業を行い、もって社会を牽引する人材を育成することを目的とする。

(事業)

第4条 この法人は、第3条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 日本国内で学ぶ大学生・大学院生に対する奨学金の貸与・給付及び留学生に対する奨学金の給付並びに奨学生に対する指導・助言
- (2) 育英に関する調査研究・情報提供事業
- (3) 大学生等の人材育成活動助成事業
- (4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

## I. 事業の状況

### 1. 大学生への奨学金支給事業 <公益事業1>

#### (1) 大学奨学生<一般枠>の採用・奨学金給付

2016年度に予約採用した71名のうち59名および2015年度予約採用の一浪9名のうち8名が、2017年4月に当財団指定大学への入学を果たしたので、計67名が大学奨学生として正式採用になった。(男性29名・女性38名/国立46名・公立7名・私立14名)  
大学奨学生<一般枠>は、総勢225名となり、給付奨学金総額は1億8,576万円。

大学奨学生<一般枠>1年生～4年生			
2014年入学	45名		
2015年入学	44名		
2016年入学	69名		
2017年入学	67名		
総数	225名	2017年度給付総額	1億8,576万円

## (2) 大学奨学生<芸術枠>の採用・奨学金給付

2016年度に予約採用した6名のうち3名および2015年度予約採用の一浪7名のうち5名が、2017年4月に当財団指定の芸術系大学・学部への入学を果たしたので、計8名が大学奨学生として正式採用になった。

(男性2名・女性6名／国立2名・公立2名・私立4名)

大学奨学生<芸術枠>は総勢24名となり、給付金総額は、1,962万円。

大学奨学生<芸術枠>1年生～4年生			
2014年入学	4名		
2015年入学	7名		
2016年入学	5名		
2017年入学	8名		
総数	24名	2017年度給付総額	1,962万円

## (3) 大学奨学生<震災支援枠>の採用・奨学金給付

2016年度に予約採用した21名のうち13名および2015年度予約採用の一浪1名のうち1名が、2017年4月に当財団指定の大学への入学を果たしたので、計14名が大学奨学生として正式採用になった。

(男性6名・女性8名／国立12名・公立0名・私立2名)

大学奨学生<震災支援枠>は総勢40名となり、給付金総額は、3,300万円。

大学奨学生<震災支援枠>1年生～4年生			
2014年入学	2名		
2015年入学	7名		
2016年入学	17名		
2017年入学	14名		
総数	40名	2017年度給付総額	3,300万円

## (4) 大学奨学生の予約採用 (2018年4月大学入学)

一般枠・芸術枠とも、募集を2017年6月に行い、奨学生選考委員会の書類選考、選考委員面接を経て一般枠88名(両親がいない枠2名含む)、芸術枠6名、計94名を採用内定した。

応募資格は、当財団が指定する国公立高等学校で成績優秀かつ学費の援助が必要と認められる高校3年生。

震災支援枠は、2011年6月の理事会で決議された「特定費用準備資金」からの支出で、2012年度から採用を開始し、2017年度採用で45名枠に到達したため、募集は終了している。

採用内定者には、受験等助成金10万円を2017年10月に支給。当財団指定の大学に2018年4月に入学した者に対しは、30万円の入学一時金および最長4年間、月額7万円の奨学金を支給する。

なお、採用内定者が2018年4月に指定大学・学部への入学を果たせなかった場合は、一浪として2019年度に指定大学・学部へ入学すれば、大学給付奨学生として正式採用される。

結果、採用内定者の 2018年4月入学者数は77名となり、内訳は以下の通り。

	一般枠	芸術枠	合計
現役	64名	3名	67名
浪人	7名	3名	10名
計	71名	6名	77名

#### (5) 海外留学・活動支援制度

2014年度に導入、2015年度より上限金額の拡大等支援の充実を図った。2017年度の利用者は延べ38名で費用は680万円であった。

#### (6) 大学貸与奨学生について

大学貸与奨学生については、2010年度に募集・採用が終了しているため、2015年度から奨学金の支給はしていない。

1965年度（昭和40年度）第1期奨学生採用以来、貸与奨学金の累計は26億8,171万円である。

## 2. 大学院生への奨学金給付事業 <公益事業1>

#### (1) 大学院奨学生（国内・修士課程）の採用・奨学金給付

2012年度募集から制度変更を行い、対象者を当財団の大学奨学生に限定している。大学院進学を予定している当財団大学奨学生の中から、奨学生選考委員会の書類選考、選考委員面接を経て、12名を正式採用した（2017年4月入学）。

2016年度採用の6名と合わせて総勢18名となった。

給付金額は月額8万円で、期中の給付奨学金総額は1,728万円であった。

#### (2) 大学院奨学生（外国人留学生）の採用・奨学金給付

2010年度から行っていた中国からの大学院留学生の受入れは、2014年度の採用をもって5年の協約契約期間満了となり、中国教育部との合意により終了となった。

2017年度は、すでに採用されている5名に奨学金を給付。（2017年度9月で終了）  
給付金額は月額16万円で、期中の給付奨学金総額は480万円であった。

### (3) 海外留学・活動支援制度

2014年度に導入、2015年度より上限金額の拡大等支援の充実を図った。2017年度の利用者は1名で費用は50万円であった。

#### <2017年度奨学金制度別 支給総額>

	大学生	大学院生	大学院留学生	計
奨学金総額	2億3,838万円	1,728万円	480万円	2億6,046万円
奨学生人数	289名	18名	5名	312名

(一般+芸術+震災)

\*留学・休学などの場合には、支給停止になる等の理由により、月額×人数がそのまま総額とはなりません。

## 3. 奨学生の研修・交流会事業 <公益事業1>

### (1) 「奨学生の集い」の実施

「奨学生の集い」は全奨学生を対象に、奨学生の研修と相互交流および奨学生と選考委員・事務局との交流を目的に、毎年開催している。内容は前半がトークショー、後半は交流会の2部構成となっている。

2017年度の「奨学生の集い」は、11月に奨学生、大学関係者、及び奨学生OB・OGなど約300名が参加して行われた。うち、現役奨学生は260名であった。

- <開催日・会場> 2017年11月18日(土) 東京汐留 電通ホール  
<講師> 漫画家 やくみつる氏、フリーアナウンサー 武田 祐子氏  
<テーマ> 『知る』を<sup>よろこび</sup>喜び、『知らぬ』を<sup>わきまえる</sup>弁える

### (2) 大学院生・大学3年生セミナーの実施

大学院(大学院留学生を含む)と大学3年の奨学生に対して、8月にセミナーを実施した。このセミナーは奨学生の研修と交流を目的とするもので、20名の大学院生および48名の大学生が参加し、奨学生相互の研鑽と親睦が図られた。

- <時期> 2017年8月26日(土)27日(日)  
<会場> クロスウェーブ船橋  
<講師>  
[大学院生] (株)ディライトデザイン 代表取締役 朝岡 崇史氏  
講演テーマ…「カスタマージャーニー・マッピング」  
～お客様のブランド体験が見える化しよう～  
※講演以外に、研究紹介やグループ発表も実施。

- [大学3年生] 我究館 館長 熊谷 智宏氏  
研修内容…「自己分析とキャリア研修」

### (3) 大学1・2年生セミナーの実施

大学1年・2年の奨学生合計151名が参加して、1泊2日で実施した。学年別の研修の他、1年生と2年生の混成によるグループディスカッションや奨学生間の交流も図った。

- <時期> 2017年9月16日(土)17日(日)  
<会場> 湘南国際村センター(神奈川県葉山町)  
<講師> セミナーは、学年別に、それぞれ経験豊かな講師によって行われた。  
[大学1年生] アイディア社 西田氏・影山氏  
研修内容…ロジカルコミュニケーション・スキルとプレゼンテーション・スキル  
[大学2年生] 法政大学 児美川教授  
研修内容…課題解決力養成研修

### (4) 修了生交流会の実施

2017年度卒業・修了予定の大学・大学院奨学生の今後の活躍を期待して、当財団の選考委員など来賓出席のもと、2018年3月3日(土)に帝国ホテルにて「修了生交流会」を開催した。

## 4. 育英に関する調査研究・情報提供事業 <公益事業1>

### (1) 会報誌「IKUEI NEWS」の発行

「大学の今がわかる情報誌」として、高等教育関係者や奨学生への有益な情報提供を目的に、会報誌「IKUEI NEWS」を年間4回(4月、7月、10月、1月)発行した。奨学生(OB、OG含む)、大学関係(教育研究者、学長室、学生部)、全国の図書館、教育研究機関などを配布先とし、毎号企画の充実を目指した。(各号約4,000部配布)

	発行月	特集テーマ	取材大学
Vol. 78	2017年4月	かけがえのない友達をつくる	東京理科大学 他
Vol. 79	同 7月	教養について考える	神戸市外国語大学 他
Vol. 80	同 10月	大学生研究フォーラム2017	大阪大学 他
Vol. 81	2018年1月	言葉の壁を乗り越えた新しい世界	東京農工大学 他

### (2) 大学生研究フォーラムの開催

京都大学高等教育研究開発推進センターと東京大学大学総合教育研究センターとの3者共催で、2017年8月18日(金)に京都大学百周年時計台記念館にて、大学・高校の教職員など合計334名の参加のもと、「10年目を迎えた大学生研究フォーラム～10 years リフレクション～」をテーマに大学生研究フォーラムを開催した。

「大学生研究フォーラム」は2017年度が最後となり、2018年度からは「リーダー育英塾」として新たな内容で実施すべく準備中です。

### (3) 大学生のキャリア意識調査の報告

2017年度は、以下3件の調査を実施。

- ①東京大学（中原研究室）と共同で「イノベーター人材育成調査」を2016年～2017年にかけて実施。2018年1月には、『『事業を創る人』の大研究』が刊行。
  - ②東京大学（中原研究室）と共同で「リーダーシップ教育の効果性検証に関する調査」を2017年度に実施。
  - ③京都大学（溝上研究室）と共同で「大学生・成人を対象とした学校から仕事・社会へのトランジション調査」を2017年から2018年夏にかけて実施予定。
- ②③については、本年夏に開催する「リーダー育英塾」でその調査結果を活用予定。

#### <2017年度 奨学金以外の事業別 活動支出額>

奨学生の 集い	大学院生・ 大学3年生 セミナー	大学1・2年 生セミナー	修了生 交流会	IKUEI NEWS	大学生 研究フォーラム	大学生 調査研究
897万円	596万円	863万円	371万円	2,805万円	565万円	1,416万円

計 7,513万円

## 5. 大学生等の人材育成活動助成事業 <公益事業2>

### (1) 助成事業

2016年10月に首都圏エリア（1都3県）の非営利組織を対象として活動計画を広く募集し、2017年2月に助成団体選考委員会にて書類選考・面接選考を行った。これまでの助成金額枠を上限100万円に一本化し、「大学・学生枠」と「一般枠」を設けて募集。結果、2017年度は応募総数49件から選考された13団体に1年間の資金助成を行った。（100万円上限）

<選考基準>大学生等の人材育成効果に加えて①応募団体の過去の活動実績 ②活動の目的・有用性 ③実施計画の妥当性 ④計画遂行力 など、総合的に評価する。

#### (大学・学生枠)7団体

学生団体 GEIL	学生のための政策立案コンテスト
NPO 法人 サイエンスリンク	サイエンスリンクフェスタ
とうようだいがく かしも もくしょうじゅく 東洋大学 加子母 木 匠 塾	学生による地産材を利用した体験型木造建築実習
法政大学市ヶ谷ボランティアセンター 「チーム・オレンジ」	学生の力を活用した東日本大震災復興支援プロジェクト
まつだい早稲田じょんのびクラブ	十日町市松代・早稲田交流プロジェクト
立教大学コミュニティ福祉学部 東日本大震災復興支援プロジェクト	陸前高田交流プログラム、気仙沼・大島交流プログラム、いわき交流プログラム
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター	気仙沼における復興支援と地域・コミュニティーづくり（早稲田大学気仙沼チーム）

## (一般枠)6 団体

NPO 法人 エデュケーション ガーディアンシップ グループ	海外高校生と日本人高校生による国際フォーラム及び国際交流フェア
NPO 法人 大学宇宙工学コンソーシアム	The 8th CanSat Leader Training Program (空き缶人工衛星製作トレーニング)
一般社団法人 日本学生会議所	大使館・国会議員インターンシップ派遣事業、講演会・シンポジウムの企画運営活動
NPO 法人 BOON	こんぺいとうゼミ ～教員志望の人材育成講座～
認定 NPO 法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン	国際理解教育ユースファシリテーター育成事業
NPO 法人 ユースコミュニティ	学習支援を通じた社会貢献に取り組む学生ボランティアのリーダー育成プロジェクト

## (2) 2018年度助成団体の募集・採用

2018年度も、2017年度と同様、「大学・学生枠」と「一般枠」を設けて募集した。応募総数 27 件から助成団体選考委員会にて書類選考・面接選考を行い、次頁の 12 団体の活動を採択した。なお、2017年度助成対象で、2018年度も助成対象として継続採択された団体は 6 団体となった。

### 2018 年度助成「大学・学生枠」5 団体

OVAL 実行委員会	IBC (International Business Contest) 国際ビジネスコンテスト
とうようだいがく かしも もくしょうじゅく 東洋大学 加子母 木 匠 塾	学生による地産材を利用した体験型木造建築実習
法政大学 市ヶ谷ボランティアセンター 「チーム・オレンジ」	学生による防災啓発活動と東日本大震災復興支援
UTSummer	UTSummer Hinohara (檜原村 対話リーダーキャンプ)
早稲田大学 平山郁夫記念ボランティアセンター	早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター 主催 ボランティアスタディツアープログラム

### 2018 年度助成「一般枠」7 団体

NPO 法人 エデュケーション ガーディアンシップ グループ	JSA (Japanese Speech Award) 国際交流フェア
一般社団法人 こどもとみらい教育研究会	プログラミング教育 STEM 教育リーダーシップ教員養成プロジェクト
公益財団法人 ジェスク音楽文化振興会	第 39 回霧島国際音楽祭 2018
NPO 法人 大学宇宙工学コンソーシアム	The 9th CanSat Leader Training Program (空き缶人工衛星製作トレーニング)
NPO 法人 日本教育再興連盟	教育に特化した被災地フィールドワーク およびワークショップの実施
NPO 法人 藤沢市民活動推進機構	“社会を知るため”のワカモノ×NPO インターンシッププログラム 2018
NPO 法人 BOON	こんぺいとうゼミ～教員志望者の人材育成講座～